日本パブリックリレーションズ協会　会員誌

PRSJ NEWS

2024 年 10 月号　No.366

They Talk Forum の様子。P9 レポート掲載

TOPICS

MESSAGE P3
自分の歩みと広報の仕事
理事　相川　貴之
BULLETIN
カンヌライオンズの潮流とＰＲの未来　パネルディスカッション開催報告 P8
2024 年度 第 1 回 They Talk Forum 開催報告「組織、文化、社会を変える コミュニケーションのチカラ」パナソニック コネクト(株) 取締役 執行役員 山口有希子氏 P9

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会
発行人：理事長　山口 恭正

目　次

10 月~1 月スケジュール		P1
MESSAGE(メッセージ)	自分の歩みと広報の仕事	P3
ATTENTION(お知らせ)	10 月入会の皆様のご紹介	P4
〃	「ニュースリリース作成ワークショップ 2024」を 10 月 29 日に開催	P5
〃	「中堅実務者講座 2024」11 月 8 日に開催	P6
	第 36 回 2 次試験の仮申込みは 10 月 25 日（金）まで	P7
BULLETIN(活動報告)	カンヌライオンズの潮流とＰＲの未来　パネルディスカッション開催報告	P8
〃	2024 年度 第 1 回 They Talk Forum 開催報告 「組織、文化、社会を変える コミュニケーションのチカラ」 パナソニック コネクト(株) 取締役 執行役員 山口有希子氏	P9
REPORＴ(講演レポート)	第 232 回定例研究会（正会員・個人会員限定） 「解剖　朝日新聞経済部」 講師：朝日新聞東京本社　経済部長 円満亮太氏	P14
PRSJ in MEDIA	協会掲載記事	P15
PLAZA(会員情報)	会員便り	P16
事務局だより		P17

10～11 月　セミナー・イベント　スケジュール

【オンデマンド視聴】

PR プランナー1 次試験対策講座	講　師	：	(株)井之上パブリックリレーションズ　横田和明氏他、全4名
PR プランナー2 次試験対策講座	講　師	：	三菱UFJフィナンシャル・グループ　飾森亜樹子氏他、全12名
PR プランナー3 次試験対策講座	講　師	：	(株)グッドパッチ　髙野祐樹氏他、全4名

【オンデマンド視聴】

PR 集中テーマスタディ＜第 2 回＞	日　時	：	2023年11月22日（水）～2024年11月22日（金）
	テーマ	：	戦略的コーポレートコミュニケーションの新展開
PR 集中テーマスタディ＜第 3 回＞	日　時	：	2024年2月21日（水）～2025年2月20日（木）
		：	ブランディングを実現する最新ＰＲ戦略

【オンデマンド配信】

第 231 回定例研究会	日　時	：	2024年9月6日(金) ～ 2025年1月31日（金）まで
	テーマ	：	メディアの興亡24年夏～日刊工業新聞社編～
	講　師	：	日刊工業新聞社 取締役の明 豊氏

【オンデマンド配信】

第 232 回定例研究会	日　時	：	2024年10月下旬公開予定
	テーマ	：	解剖　朝日新聞経済部
	講　師	：	朝日新聞東京本社　経済部長の円満 亮太氏
情報交換会（新入会員歓迎会）	日　時	：	2024年10月23日(水)18：30～（18：00受付開始）
	会　場	：	大手町プレイス　イーストタワー　住友商事(株)　26F CO CAFE

【対面】

ニュースリリース作成ワークショップ 2024	日　時	：	2024年10月29日（火）17：00～20：00
	会　場	：	富士ソフトアキバプラザ　セミナールーム2
	テーマ	：	デジタル時代のニュースリリース戦略
	講　師	：	(株)共同通信ピー・アール・ワイヤー　次長　西林 祐美氏

【オンデマンド視聴】

カンヌライオンズ PR 部門	日　時	：	9月25日（水）～
パネルディスカッション	テーマ	：	カンヌライオンズの潮流とPRの未来～アワード受賞のヒントを探る～
	パネリスト	：	カンヌライオンズPR部門 審査員／PRアワードグランプリ2024 審査委員 田上智子氏 博報堂／博報堂ケトル　嶋 浩一郎氏 PRSJ理事長／電通PRコンサルティング　山口 恭正氏

10 月～11 月の理事会・委員会・部会スケジュール

◇定例理事会	（10 月度）	日 時	：	10 月 10 日（木）	16：00～17：30
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
	（11 月度）	日 時	：	11 月 14 日（木）	16：00～17：30
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇教育委員会	（10 月度）	日 時		10 月 17 日（木）	16：00～17：00
		会 場		事務局＋オンライン開催	
◇資格委員会	（10 月度）	日 時	：	10 月 24 日（木）	14：00～15：30
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇国際・交流委員会	（10 月度）	日 時	：	10 月 4 日（金）	15：30～16：30
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇広報委員会	（10 月度）	日 時	：	10 月 29 日（木）	10：00～11：00
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇顕彰委員会	（10 月度）	日 時	：	10 月 16 日（水）	16：00～17：00
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇企業部会幹事会	（10 月度）	日 時	：	10 月 2 日（水）	17：00～18：00
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	
◇PR 業部会幹事会	（10 月度）	日 時	：	10 月 15 日（火）	16：00～17：00
		会 場	：	事務局＋オンライン開催	

自分の歩みと広報の仕事

公益社団法人 日本パブリックリレーションズ協会
理事　相川　貴之
（いすゞ自動車(株)　広報部長）

私は30年と少し、総合電機メーカーで勤務し、前半は直販営業、後半をブランド戦略、企業宣伝、経営広報といったコーポレートコミュニケーションで過ごしました。その後、恐れ知らずに50代を超えて異分野の商用車業界に飛び込み、再び広報業務に就いています。営業時代は意外にも家電の業務経験はなく、通信キャリアの先端研究所の皆様が主なお客様でした。今や当たり前となった光ファイバーやＷｉｆｉ技術の超高速通信に関する要素開発、普及に向けた試作共同開発テーマの提案活動など開発営業と呼ばれる仕事をしていました。思い返せばド文系の私がドクターの皆様と仕事をさせていただく中で、人を介して仕事をする際の距離の縮め方、信頼を得るやり方、失敗をリカバリーする際の初動など、仕事の型の基本形が培われたと思います。今、営業時代に大切にしていた人肌感覚あるコミュニケーション、理と情を持ったリレーションシップ、定量化することのできない愛嬌といった価値、いずれも広報業務にこそ強く求められるとの確信があります。業界は変わりましたが、VUCA時代に多様化する価値観、テクノロジー変化、一層、情報流通が拡大する中で、企業意思を伝える広報の責任の重さを痛感すると共に、醍醐味を仲間と共に味わうことが出来、本当に幸せなことと感謝しています。

社会と経営を繋ぐ要である広報には、リスク対応を含め、次々に判断に迷う課題が降りかかります。確固たるスタンスを持つには、結局はブレない自分の軸が必要になるのではないでしょうか。軸を確かなものにするには、経営意思とどこまで正確に呼吸出来るか、同時に世間の声や風向きを常に浴び、時にトップへ諫言出来る覚悟と準備が出来るかに懸かっています。『常に世間は正しい』を大切にして来ました。何かを発する際、予想に反した受け止め方をされることもあるでしょう。しかし報道論調に一喜一憂し、少しでもコントロールしようとするとおかしな方向に行くことが多いように思います。自責と素直なスタンスで全てを受け止め、創意工夫で反省を次に活かす。この繰り返しに尽きると思います。

広報の仕事の定義が様々に議論されるところですが、このPRSJはＰＲ業と企業広報が同居し、理論と実践で場数を積んだ経験豊富で愛嬌と魅力ある沢山のパーソンが集うユニークで刺激的な協会です。是非、皆様と交流を深めながら、進化するＰＲ業界を共に歩んでいきたいと心から願っております。

新規入会の会員（正会員）のみなさまの「自己紹介」ページです。今回は、10 月にご入会いただきました正会員（掲載希望社）をご紹介いたします。

株式会社 A3X	株式会社 A3X は、マーケティング戦略・企画を主な事業とする会社です。総合キャスティング会社のエイスリーの子会社として、2024 年 5 月に設立いたしました。 世界の才能を見つけ、拓く、グロースパートナー「The Talent Growth Company」であるエイスリーグループの一員として、国内外の多彩な才能（タレント）を活用したマーケティングソリューションを提供しています。 お客様から、PR イベントやメディアを活用したプロモーションのご相談を頂いており、ぜひ PRSJ を通して皆さまと情報交換や交流の機会ができれば幸いです。
株式会社マクロミル	株式会社マクロミルは、2025 年 1 月に設立 25 周年を迎えるマーケティング・リサーチ企業です。「マクロミルと言えばネットリサーチ」と想起される方も多いかもしれませんが、実は、お客様のマーケティング課題を上流から伴走するマーケティング支援企業を目指し、事業拡大を推進しています。 日本パブリックリレーションズ協会での活動を通じて、PR 業界の最新情報やトレンドを学ぶとともに、会員企業の皆さまとさまざまな情報交換をしていきたいと考えています。どうぞよろしくお願いいたします。

パブリックリレーションズ実務講座 2024
「ニュースリリース作成ワークショップ 2024」を 10 月 29 日に開催
～デジタル時代のニュースリリース戦略と生成 AI 活用をテーマに～

教育委員会

10 月 29 日（火）、生成 AI を活用したニュースリリース作成を実践していただく「ニュースリリース作成ワークショップ 2024」を開講いたします。

広報ＰＲにおいて、ニュースリリースは最も基本的かつ重要な施策の一つです。

メディアを通じた情報発信はもちろん、近年ではリリース配信サービスを通じて、一般生活者の目にも直接届く機会が増えています。
そのため、ニュースリリースの重要性はますます高まっています。

特にここ数年、OpenAI をはじめとした生成 AI の進化により、時短かつ高品質な文書作成が可能となりました。
生成 AI を活用することで、ニュースリリース作成にかかる時間を大幅に短縮しつつ、内容の精度を高めることができます。
ただし、生成 AI を利用する際には、発表前の情報管理やファクトチェックの重要性を理解し、適切に活用することが求められます。

そこで、本講座では、ニュースリリース配信サービス「PR Wire」を運営されている株式会社共同通信ピー・アール・ワイヤーの西林氏を講師にお招きし、

- 生成 AI を活用したニュースリリース作成体験ワークショップと注意点
- Web の情報流通構造を起点とした PESO モデルから考えるニュースリリース戦略

を実践形式で学んでいただける内容で開催いたします。

この機会に効率的かつクオリティの高いニュースリリース作成スキルを身に付け、日々の業務に活かしていただければ幸いです。
ぜひ奮ってご参加ください。

なお、本講座の詳細については、下記の協会 Web サイト 講座案内ページをご覧ください。
https://prsj.or.jp/event/newsrelease2024/

（事務局　佐藤）

パブリックリレーションズ実務講座 2024

「中堅実務者講座 2024」11月8日に開催
～ESG のトップランナーを目指す良品計画の広報リーダーがご登壇～

資格委員会

11 月 8 日（金）、広報現場リーダーである中堅実務者に向けた「中堅実務者講座」を開催いたします。

広報部門は、企業におけるコミュニケーションの中心的な存在です。自社のレピュテーションを高めるだけでなく、社会からの信頼を築き、ステークホルダーとの良好な関係を構築する役割を担っています。

そのような広報部門において、現場リーダーである中堅実務者の役割は非常に重要です。
中堅実務者は、社内の他部門や上司・チームメンバー・同僚、さらには社外のメディア関係者との調整業務に多忙を極めていることと思います。
それでもなお、現場でリーダーシップを発揮し、会社の広報活動を効果的に推進することが求められます。

本講座では、無印良品を展開する株式会社良品計画　経営企画部長で ESG 経営推進課長と広報課長でもある阿南 理恵氏を講師にお迎えします。

阿南氏は 2021 年に良品計画へ入社。ESG のトップランナーを目指す良品計画にて、統合報告書「MUJI REPORT」の制作・発行をゼロから手がけられました。また、全社横断 ESG プロジェクトを立ち上げ、推進するため月 1 回の ESG 推進委員会をスタートされるなど、社内外の多方面でご活躍されています。
MUJI REPORT：統合レポート ｜ 株式会社良品計画（ryohin-keikaku.jp）

講座では、以下の内容についてお話しいただきます。
・良品計画に入社直後すぐに社内外のメンバーとともに統合報告書を発行、その道のり
・経営トップをはじめ社内外のメンバーを巻き込みながら広報業務を進めるためのポイント

中堅実務者の皆様が、日々の業務の中で直面する課題に対して、実践的なヒントを得られる内容となっております。
社内メンバー、メディア関係者、すべてのステークホルダーとの関係を強化しながら、現場リーダーであるご自身の役割を効果的に果たしていくためのポイントをお伝えいただきます。

また、本講座は、【対面講座】にて開催予定です。オンデマンド配信を行う予定はございません。貴重な機会となりますので、ぜひ奮ってご参加ください。

本講座の詳細及び聴講お申込みについては、下記の協会 Web サイト 講座案内ページをご覧ください。
https://prsj.or.jp/event/chukenkouza2024/

（事務局　佐藤）

PRプランナー資格認定制度／検定試験

第 36 回 2 次試験の仮申込みは 10 月 25 日(金)まで

ー試験期間は、11 月 9 日(土)～17 日(日)ー

資格委員会

2024 年度後期（第 36 回）2 次試験の申込みを受付中です。仮申込み締切りは 10 月 25 日（金）、試験は CBT 方式で、試験期間は 11 月 9 日（土）～11 月 17 日（日）の 9 日間で実施します。

2 次試験では、試験勉強を通して広報・ＰＲに関する実務に関する専門知識が履修できる内容となっております。また時事問題の履修は、世の中で起きている出来事を常に意識し、テレビや新聞、インターネット等で情報収集することによって、自社の企業価値を高めていくための目標や課題を、広報・ＰＲ実務に結び付けていく第一歩にも繋がります。

この機会に、ぜひ受験をご検討いただければ幸いに存じます。

【ＰＲプランナー資格認定制度／検定制度　第 36 回 2 次試験　実施概要】

試験期間	**2024 年 11 月 9 日（土）～11 月 17 日（日）**
仮申込み期間	**2024 年 10 月 25 日（金）23:59 まで** ※ＰＲプランナー資格制度 Web サイトでのお申込みとなります。（本申込に必要な受験コードを取得）
本申込み期間	**2024 年 11 月 1 日（金）23:59 まで** ※CBTS Web サイトでの本申込みとなります。（受験日時・会場選択、受験料のお支払い） ※CBT 方式のＰＲプランナー試験を初めて受験する方のみ、CBTS Web サイトにユーザー登録が必要となります。
合否発表	2024 年 11 月 27 日（水）正午
受験資格	１次試験合格者（１次試験に合格されていれば、ＰＲプランナー補の資格を取得していない方も受験できます。）
試験科目	科目Ａ：企業経営と広報・ＰＲに関する知識 科目Ｂ：マーケティングと広報・ＰＲに関する知識 科目Ｃ：コミュニケーションと広報・ＰＲに関する実務知識 科目Ｄ：時事問題（今回の出題範囲は、2024 年 4 月～2024 年 9 月末までの 6 ヵ月となります。）
試験時間	科目Ａ＋Ｂ　80 分、トイレ休憩をはさみ 科目Ｃ＋Ｄ　80 分
試験出題数	各科目 25 問、全 100 問
合格基準	全出題数に対して正答率 65％以上、かつ各科目の正答率がいずれも 50％以上で合格とします。 （全出題数に対して正答率 65％未満の場合、もしくは１科目でも正答率 50％未満の場合は不合格となります。）
対応公式テキスト	広報・ＰＲ実践（2024～2025 年度版）

試験スケジュール等、詳細につきましては、下記のＰＲプランナー資格制度 Web サイトでご確認くださいますよう、お願い申し上げます。

ＰＲプランナー資格制度 Web サイト：https://pr-shikaku.prsj.or.jp/

「カンヌライオンズの潮流とPRの未来」
～アワード受賞のヒントを探る～

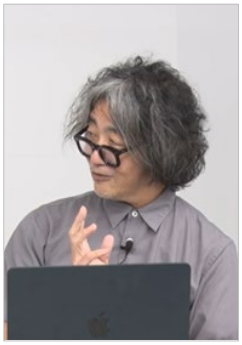
パネルディスカッション開催報告

◇ オンデマンド動画を公開中 ◇

顕彰委員会

去る９月９日に、ＰＲアワードグランプリ 2024 への更なるエントリー数の拡大をはかることと、パブリックリレーションズの啓発・普及を目的にして、近畿大学東京センターにて 2024 年度カンヌライオンズＰＲ部門において日本代表の審査員として参加した田上智子氏（シナジア）、同じく今年度のカンヌライオンズに参加した嶋浩一郎氏（博報堂・博報堂ケトル）、山口恭正氏（PRSJ・電通 PR コンサルティング）の三人によるパネルディスカッションを開催しました。田上氏は事業会社、嶋氏はエージェンシー、山口氏は PRSJ 理事長の立場から異なる視点で議論を行い、今年のカンヌライオンズ受賞作品の潮流を読み解くとともに、これからのＰＲのあるべき姿やアワード受賞のヒントについて熱く語ってもらっています。

パネルディスカッションでは本年度のカンヌライオンズＰＲ部門受賞業務から「クリエイティブ」、「テクノロジー」、「社会課題」、「事業」、「ブランド」という切り口で代表業務を抽出し、なぜアワードを受賞したのかを議論しています。また社会課題を考えている企業体やブランドがあらゆるステークホルダーとのエンゲージメント（深い関係性の構築）を通じて社会発想で企業のポジショニングを再構築している新しい潮流や、シンパシーとエンパシーの違いとＰＲにおけるエンパシーの力の大切さ、事業会社とエージェンシーのこれからのあるべき協業の姿なども提唱している非常に中身が濃い内容になっています。そして「カンヌの道もＰＲアワードから」と PRSJ が運営しているＰＲアワードグランプリ 2024 へのエントリーも呼びかけています。



このパネルディスカッションの模様は、動画視聴のために撮影・編集されており、PRSJ の会員であれば無料で視聴することができます。また、会員以外の方も有料（1,000 円）でご視聴いただけますので、ぜひご覧ください。

お申込み、詳細はこちら https://prsj.or.jp/pick_up/talk/aboutcanneslions2024/

2024 年度 第 1 回　They　Talk　Forum 開催報告

組織、文化、社会を変える コミュニケーションのチカラ

パナソニック コネクト株式会社 取締役 執行役員

山口有希子さん

国際・交流委員会

各界の女性リーダーをスピーカーとしてお招きし、女性のエンパワメントとビジビリティ向上、会員同士のネットワーク構築を目的として開催する「They Talk Forum」。今年度第 1 回は、パナソニック コネクト株式会社の CMO（チーフ・マーケティング・オフィサー）で、DEI（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）の推進やカルチャー改革等の企業トランスフォーメーションも担当されている山口有希子さんに講演をお願いしました。同社は、パナソニック ホールディングス傘下の、サプライチェーン、公共サービス、生活インフラ分野など向け機器とソフトを開発、製造する会社で、1 兆 2,028 億円（2023 年度）の売り上げ規模を誇ります。

また、山口さんは、シスコシステムズ、Yahoo! JAPAN（現 LINE ヤフー）、日本 IBM など複数の日本企業・外資企業にて長年マーケティング部門に従事され、日本アドバタイザーズ協会 デジタルメディア専門委員長や、ダイバーシティ＆イノベーション イベント「MASHING UP」 アドバイザリーボードなど、マーケティング、デジタルメディア分野の公職も務められています。

国内外企業で幅広い経験を積まれた山口さんが語る「コミュニケーションのチカラ」とは？
7 月 1 日に開催した講演の模様をご紹介します。

■「こんなつもりではなかった」壁にぶつかりっぱなしの社会人スタートから外資へ

大卒後、大手不動産会社に就職された山口さん。就活時はバブルの末期で、まだまだ不動産は花形産業。600名が内定をもらったそうですが、直後にバブルがはじけ、同期の大半は 3 か月で転籍に。山口さんご自身も、高級マンションの営業をする筈が、最低価格 2 万 5 千円の広告の飛び込み営業担当に回され、「こんなつもりではなかった」と当時を振り返りました。仕事も激務で、このままでは体が壊れると転職を決意。但し、実績を残さずやめるのは悔しいと、優秀な営業担当に与えられる賞を目標に掲げ、見事２期連続で受賞した上で退職。やることをやってやめられたのはさすがです。

ところが、バブル崩壊の影響に加え、そもそも当時の日本で女性を総合職として採用する企業は数えるほど。しかも九州出身で人脈もない山口さんは、数十社に入社を断られる憂き目に。派遣社員で働きながら資格を取り、やっと総合職で採用された会社にも、結婚し妊娠したら辞めるように勧められたことがあったそうです。当時の日本の環境では、どんなに女性が総合職で頑張ってもイコール・オポチュニティではないと感じた山口さんは、日本企業で働く事をあきらめ、外資系企業へと転職されることになります。

■ 再び日本企業へ！　JTC（Japanese Traditional Company）を変えたい！

外資系企業では、マーケティングや PR 領域でご活躍され、実力主義の中で充実した会社生活を送られた山口さんですが、ご自身のキャリアも後半を迎え、これから何のために仕事をしたらよいのかと改めて考えるようになったそうです。外資系の企業実績に対しては、外資系だからこそ出来たんだという見方をする人もいましたが、「そうではない。日本企業が変わったらそれは素敵な事ではないか」という思いを抱くようになったそうです。

その頃声がかかったのがパナソニック。山口さんは、当時を振り返り次のようにコメントをされています。「樋口（泰行）さん（現パナソニック コネクト CEO）や他の役員の方と話をしたところ、すごく熱かった。会社を変革したい、そのために一緒に働いて欲しいと言われ、パナソニックのような JTC が変わるとその影響は大きいな。キャリアの最終章の中で、日本企業の変革に、熱い想いのある仲間と共に取り組みたい！　そう思ったんです」

こうしてパナソニックへの移籍を決意され、以降 7 年間、様々な変革に取り組まれることになります。

■ リーダーが体現しなければ変革は起こらない

「健全な企業カルチャーがなければ、どんなに優れた組織能力や戦略があっても機能しない」という樋口 CEO の信念のもと、「企業カルチャーの変革に、とにかく真面目に力を入れて取り組んでいるのがパナソニック コネクト」と言う山口さん。

「どうしても会社が大きくなるとヒエラルキーが生まれ、世の中やお客様、パートナー企業から離れていってしまう。そうではなく社員全員で社会に向き合っていくことが重要。ファウンダーである松下幸之助も“自由闊達”“下意上達”と言っているが、それが本当に出来ているか？ あるべき姿に到達するのはたいへんだが、それにチャレンジする」という山口さんの言葉には決意がみなぎっています。

また、「変革にはものすごい破壊力が必要で、健全なカルチャーをつくるには、リーダーが口で言うだけではなく、それを体現することが必要。そうでなければカルチャー変革は企業の中で絶対におきない」樋口 CEO の言葉を引用し、山口さんはそう語ります。

■ カルチャー変革とコミュニケーション

パナソニック コネクトでは、人事、マーケティング、R&D、IT、リーガルなどに加え、各事業部が様々なプロジェクトを複層的に走らせ変革に取り組んでいるそうです。「全社で取り組まないと、会社のカルチャー、空気は変わらない」と山口さんは強調します。

具体的な取組み事例もいくつかご紹介いただきましたが、その一つが東京への本社移転。大阪の雄である同社にとっては、私たちが想像する以上にたいへんな事だったようですが、お客様との接点を最大化するために決断をされました。同時にオフィスをフリーアドレスにし役員個室も撤廃、直立不動の朝礼をやめ、服装もカジュアルに。講演で投影した役員の集合写真は、CEO 以下皆さんＴシャツにジーンズで爽やかな笑顔。そこに JTC の面影はありません。

「年が上、役職が上というのは企業の中では怖い存在です。そんな怖い人がスーツを着て、笑っていなかったら話しかけにくいでしょ」と笑う山口さん。話しかけにくいことは、デシジョンメイクの遅れにも繋がるので、オープンでカジュアルかつ笑顔でのコミュニケーションを戦略的にプロデュースしているとのこと。CEO

メッセージを発信する社内のライブ番組も「Ch.Yasu」と命名し、カジュアルな仕立てに。そうした取り組みの結果、企業代表としては初めて樋口 CEO がベストジーニスト「特別貢献賞」を受賞されたそうです。ジーンズで出社してもいいんだというカルチャーの変革をリーダーが体現されていますね。

山口さんは、企業のカルチャー変革にはコミュニケーションがものすごく重要で、どういうトーンの言葉を使い、どういうトーンの話をするのかといった総合的なプロデュースが必要と指摘します。トーンやメッセージ、デザインの一貫性を意識し、社内サイトやパワーポイントのテンプレート等はもちろん、オフィスプランニングも総務と連携し、一貫性を担保しているそうです。

■企業の変革と DEI の推進

カルチャーを変える上では DEI も重要なポイントで、「一人一人が尊重されていると本当に腹落ちすれば会社の空気、カルチャーが変わる。だから本気で人権を大切にしている事を社内外に発信するようにしている」と山口さんは語ります。

パナソニック コネクトの DEI の推進体制はユニークで、リーダーは CEO ですが、CHRO 単独ではなく、CFO 並びに CMO（山口さん）と一緒にドライブする体制。各職場にはチャンプと呼ばれるリーダーを選任。現場に向き合い課題をヒアリングし、それをつぶすアクションを活発に繰り返しているそうです。
「どんどんやることが増えるんです」と言いながらも楽しそうな山口さんが印象的でした。その他、有識者を呼んでの研修や DEI に関するイベントも企画し、生理痛体験会には男性役員も多く参加されたとか。

■企業トランスフォーメーションとコミュニケーション／マーケティング

パナソニック コネクトの企業トランスフォーメーションは、風土改革（カルチャー改革）だけではなく、ビジネス改革と事業立地（ポートフォリオマネジメント）を合わせた 3 レイヤーに取組んでいます。特に事業立地改革では、事業売却や事業終息、工場閉鎖等本当に苦しい事もやってきたそうです。一方で大型買収（Blue Yonder）も行い、27 年度の目指す姿として EBITDA 2000 億円を掲げています。ビジネス戦略達成のためにもカルチャー改革が必須だと山口さんは言います。

また、企業トランスフォーメーションをドライブするということはパーパスを実現するということで、世の中にとって価値のある企業になるためのトランスフォーメーションには、コミュニケーション、マーケティング、並びに前述のようなプロデユースが絶対に必要だと熱く語る山口さん。だからこそそれが出来る組織をつくらねばならないということで、パナソニック コネクトに来てからの７年間、デザイン＆マーケティング部の組織改革にも取り組み、機能を創出・強化し、結果を出せるチームに変革したそうです。ただ、樋口 CEO の期待値は高く、「それに比べるとまだまだ。だからたいへんなんです（笑）」と。

■パナソニックグループでの７年間を振り返って

７年間の変革を振り返って何が重要かと言うと社内外と繋がること。コミュニケーション職能はそれだけでは何もできない。事業部と繋がり、経営と繋がり、そしていい感じでプロデュースをすることがとても重要。そのためには現場や経営を理解し、寄り添わなければいけない。そういうことをやっていけば、「現場から 社会を動かし 未来へつなぐ」というパーパスを実現できるようなコミュニケーション活動が可能だと思うし、そのためのアクションを実行すれば、そこに共感する仲間が集まってくれると実感している。同じ想いを持つ人や会社が繋がって、社会をより良くし、未来へつなぐことが出来ればと日々頑張っている。
山口さんはそう語り、講演を終えました。

■おまけ

山口さんには、講演の後も会場に残ってもらい、食事をとりながら対面参加者と懇親をしていただきました。21 歳のお嬢様がいらっしゃるとのことですが、家庭との両立に関する質問に、「時間的な制約がある中で、お互いのエクスペクテーションを同じにすることが重要。そのために、たくさん会話して、逃げずにコミュニケーションをすることが大切です。仕事でも一番話しにくい人にこそ自ら話しに行くと、道

が拓けることが多いです」とコメントされたのが印象的でした。
　エネルギーに満ち溢れた山口さん。参加者の皆さんには大いに刺激になったことでしょう。
１２０歳まで生きるつもりとのことですので（笑）、キャリアの後半などとおっしゃらずに、キャリアの続編に期待しています！

国際・交流委員会委員長及び文責　：　江中一穂（住友商事㈱）
企画・司会進行　：　渡辺克己（㈱K-works）

【正会員・個人会員限定】

第 232 回定例研究会

解剖　朝日新聞経済部

講師：朝日新聞東京本社　経済部長　円満亮太氏

第 232 回定例研究会は、9 月 18 日（水）開催しました。講師は朝日新聞東京本社　経済部長 円満亮太氏。テーマは「解剖　朝日新聞経済部」でした。

協会掲載記事

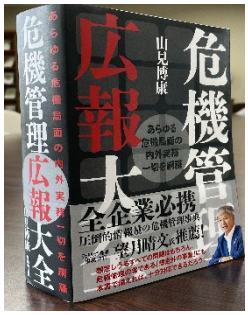
● 10 月 1 日（火）『月刊広報会議』（宣伝会議）11 月号
『月刊広報会議』11 月号における当協会の連載コラムで、当協会で開催しているセミナー「定例研究会」について掲載。
　コラムでは、5 月 29 日に開催したＮＨＫ 報道局専任局長 取材センター長　編集主幹の山口 学氏による「第 230 回定例研究会”メディア環境激変”ＮＨＫが果たす使命とは」の内容や過去の定例研究会のテーマ等について紹介しています。

■ 会員便り

このページは会員の皆様から寄せられた情報をお伝えしております。
※内容によって掲載についてご相談させていただく場合があります。

以下正会員の山見インテグレーター(株)様から寄せられた原稿です。

～広報・危機管理の本質に基く座右の実践指南書～最厚最詳『危機管理広報大全』



序文＆帯：元経済産業事務次官望月晴文氏推奨！関係者必読！各部署に１冊！去る７月 2013 年上梓のロングセラー『企業不祥事・危機対応広報完全マニュアル』（720 頁）（自由国民社）を新版化し、1568 頁に増頁した『危機管理広報大全』を上梓しました。

■形式：ソフトカバー、厚み 7cm、Ａ５判、単価 9,900 円（税込）

本書は、私が長年大小企業で実践し蓄積した知識・ノウハウを総合的に熟成したエキスを網羅した、最厚最詳の理論的実践指南書であり「広報大全」と言えます。加えて、ビジネス人としての心得、人生の生き方をも学ぶことが出来るでしょう。

特徴・差別点	1	人間のあり方と会社のあり方を一致させて、危機管理の本質を学べる最も厚い本
	2	平常時・緊急時の危機への備えから管理対応法を具体的に詳述した最も詳しい本
	3	多様な組織、多彩な業種、多種の分野をカバーし、応用できる最も多様性ある本
活用法	1	本書を読めば、初心者にも広報の本質を理解し、危機への対応法を実践できる
	2	本書を使えば、経験者にも蓄積した知見を基に、更に対応法を深化拡充できる
	3	本書を活かせば、マニュアルの作成・改善・見直しに関し漏れなく実行できる
	4	本書を辿れば、危機に遭遇しても本質に還り、解決方向をプロセスで見出せる
	5	本書を探せば、メディア・企業等幹部のコラム・アドバイス＋連絡先が使える

【目　次】

第１章広報の本質と役割について
第２章日本的中小企業経営 100 年企業
第３章企業倫理、ガバナンス
第４章報せる手段としてのメディア
第５章ネタの集め方とリリース作成法
第６章情報発信法と危機対応
第７章危機対応の本質と事前対応
第８章危機には７つの直で対応
第９章危機の種類別対応プロセス
第 10 章 IR.CSR/SDG s /ESG,ブランド
第 11 章情報マスターから Q&A 作成法
第 12 章会見時の話し方と振る舞い方
第 13 章記者会見の仕方実践指導
第 14 章章情報収集と効果測定
第 15 章危機を予知するモニタリング
第 16 章国際ビジネスにおける危機対応
第 17 章危機管理に長けた PR 会社
第 18 章記者とのコミュニケーションの心得
第 19 章危機管理マニュアルの作成法
第 20 章危機管理広報の達人になる法２か条

【コラム】メディア 38、識者 70、山見 28　計 136　【名言・箴言】1500 以上
【巻末付録】①危機管理アドバイス＝メディア幹部 37・防衛省他官庁自治体・団体・学校 24、
企業幹部 48 計 109 人　②記者クラブ・メディア連絡先一覧
①　リリース実物見本（平常時・緊急時）　④参考図書　⑤索引　他

≪著者略歴≫広報・危機管理コンサルタント　1968 年九大（経）卒。神戸製鋼入社。79 年広報係長より一貫して広報に携わり 91 年広報部長。2002 年独立。日本バスケットボール協会元裁定委員長、元全日本柔道連盟広報アドバイザー、企業価値協会理事　他　著作『新版広報ＰＲの基本』『ニュースリリース大全集』『勝ち組企業の広報戦略』等全 23 冊。福岡県出身

お問合せ先：山見インテグレーター（株）山見博康へ TEL:090-3206-8335、メール：yamami@yico.co.jp

事務局の青田です。

10 月に入り、各部会・委員会の活動が全開です。これから年末にかけて講座や交流会が打ち上げ花火のラスト 10 分のように連発で開催されます。
いずれも魅力的なテーマ、講師により中身の濃い内容になること間違いなしですので、みなさん、是非ご参加ください。

■ＰＲアワードグランプリの審査が始まります！（ＰＲアワードグランプリ 2024）

年々、エントリーされるプロジェクトのクオリティが上がっているＰＲアワード。今年も 10 月 15 日にエントリーが締め切られ、いよいよ白熱の審査が始まります。
今年新たに加わった審査員は、2024 カンヌで日本代表審査員を務められた元資生堂の田上智子さん、電通ＰＲＣの橋本良輔さん、ジャーナリスト枠で PIVOT の竹下隆一郎さん。みなさんの率直、真摯な議論は毎回、横で見ていて非常に刺激になります。
今年の受賞プロジェクトはどんな顔ぶれになるのか、期待値大です！

■ルールの見直しを始めます。（協会全体）

来年はＰＲＳＪ設立４５周年です。公益社団法人となってから様々な規則が策定・更新されてきましたが、実際の運用と異なる部分が生じていたり、明文化しておくほうがよいことなどが出てきたりしており、この機会に全体を見直すことにしました。
ルールに合わせて運用を変えるべきものもあれば、運用実態に合わせてルールを変える方がむしろベターであると判断されるものもあります。
大きくは会員制度や定款に関わること、小さくは各委員会・部会の活動の細かな部分、たとえば対象者をどこまでの範囲とするか、参加費用をどのように設定するかなど、検討・協議の対象はさまざまです。
今年度末までに整理をし、来年度から施行・適用していく予定です。これから各部会・委員会で検討を始めますので、会員のみなさまにはご意見やお気づきの点あればドシドシお寄せください。
よりスムーズな協会運営によって、より高い成果を上げ、会員のみなさんの期待に応える協会にしていきましょう。ご協力のほど、よろしくお願いします。

編集担当より

本誌の内容に関するご意見・希望をお寄せください。

中身の濃い会員誌に育てていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

広報委員会

Eメール　mail@prsj.or.jp

※禁転載

公益社団法人日本パブリックリレーションズ協会
〒106-0032　東京都港区六本木 6-2-31　六本木ヒルズノースタワー5F
〒530-0001　大阪府大阪市北区梅田 1-12-12 東京建物梅田ビル 12F